



上：雑誌『愛国婦人』477号 大正11（1922）年1月発行
下：実践女子学校開校式の時 明治32（1899）年 部分
※すべて実践女子大学図書館所蔵

2025年

4月1日（火）～4月25日（金）

第24回 学祖・下田歌子展

— 爱国婦人会と夜間女学校 —

開館時間 10時30分～17時
休館日 土・日曜日
観覧料 無料
会場 実践女子大学香雪記念資料館
企画展示室1・2
主催 実践女子大学香雪記念資料館
後援 実践女子大学香雪記念資料館
渋谷区教育委員会

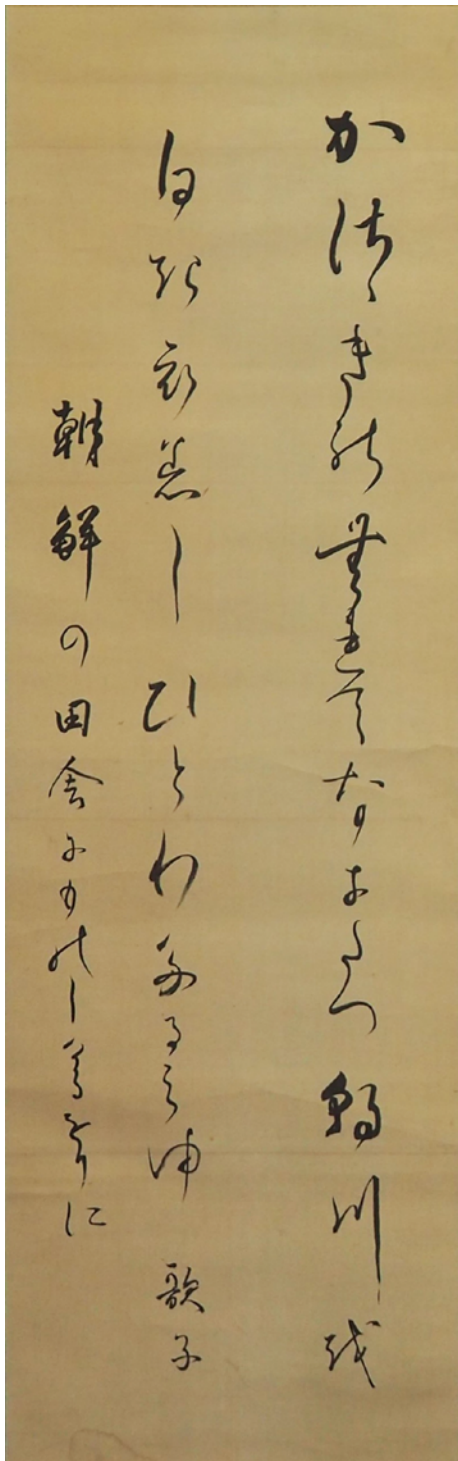
実践女子大学香雪記念資料館

愛国婦人会は、明治 34 (1901) 年、奥村五百子の呼びかけにより、政府高官とその夫人などが発起人となり、明治 33 (1900) 年の「北清事変」の戦死者の遺族への援助を目的に設立されました。会の趣意書を起草したのが下田歌子です。名誉会員に皇族を迎え、各県に支部を設けたほか、朝鮮本部、台湾支部も設置されました。

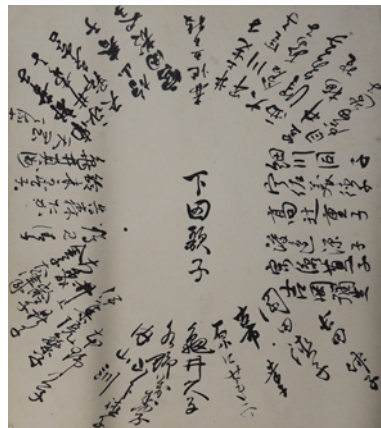
下田歌子は、創立当初より評議員を務め、大正 9 (1920) 年、67 歳のときに第 5 代会長に就任します。就任後は会の趣旨を広めるため、大正 10 (1921) 年より全国で講演会を開催します。8 月には、北海道および樺太、10 月には京城（ソウル）、奉天、大連にも足をのぼし、講演は 30 数回を数えました。翌年には、関東、九州地区を中心に講演 50 回に及び、昭和元 (1926) 年末には、会員数が 39 万余名も増加しました。また婦人職業相談所（紹介所）、授産所の開設（仕事の斡旋）、夜間女学校の開設、大正 12 (1923) 年の関東大震災後には、罹災者救済の恒久施設を被害の甚だしかった本所に開設しました。この「隣保館」には、婦人宿泊施設、職業紹介所、託児所、児童図書館などが設置されていました。関東大震災では、衣類・夜具の不足を補うため、市民に配布した衣類だけでも 200 万点に達したといわれ、実践女学校の生徒もこの衣服作製に協力しました。

本展では下田が晩年まで力を注いだ社会事業と女子教育について紹介します。

※すべて実践女子大学図書館所蔵



書幅 朝鮮の田舎にもしける折に 大正 10 (1921) 年 絹本墨書



署名寄せ書 愛国婦人会役員 大正 12 (1923) 年 色紙



雑誌『愛国婦人』471号 大正 10 (1921) 年 7 月



雑誌『愛国婦人』473号 大正 10 (1921) 年 9 月



愛国婦人会役員に囲まれて 昭和 11 (1936) 年 写真

【アクセス】

JR／東京Metro／東急／京王「渋谷駅」東口から徒歩約 10 分
東京Metro「表参道駅」B1 出口から徒歩約 12 分

※当館は、実践女子大学渋谷キャンパスの 1 階ロビー奥に位置します。駐車場・駐輪場はありません。ご来館の際は公共の交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室へ入館の旨をお伝えください。

※やむを得ず会期や開館時間を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。



HP <http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>
〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
実践女子大学渋谷キャンパス 1階

実践女子大学香雪記念資料館

Kosetsu Memorial Museum